

2021 年度 事業報告書

社会福祉法人
日本心身障害児協会

【島田療育センター多摩】

- ・ 2021年 年度方針P1
- (1) 感染対策を講じつつ、各事業の増収計画を見直し、収入につなげるP1
- (2) 接遇アッププロジェクト推進委員会作成の「接遇ハンドブック」を使用しての接遇強化に努めるP2
- (3) 入所事業は日中支援の在り方、在宅支援は島田療育センターではなくては出来ない事業の見直しP2
- (4) 変化する社会・医療・福祉情勢に組織で対応出来る人材育成を行うP2
- (5) 新センター建築計画の構築P2
- (6) その他P3
- (7) センター内設備の整備P3
- (8) 各アクションプランP3
- (9) 利用者調査の実施P4
- (10) 地域との交流P5

- ・ 2021年度多摩利用状況と実績
- ・ 職種別人数

【島田療育センターはちおうじ】

- ・ 2021年度 年度方針と総括P6～P7
- ・ 2021年度はちおうじ事業概況と実績P8

2021 年度 事業報告

始めに利用者様の生活では、多くの行事が縮小されながらも、病棟単位で生活の充実を図る努力をし、ご不便を掛けながらではありますが穏やかに生活して頂けたのではないかと評価しています。新型コロナウイルス感染症は、感染状況の浮き沈みがありながらも、利用者様とご家族とのオンライン面会から、制限はかけながらであります、対面面会を行うことが出来ました。新型コロナウイルス感染症は職員の感染はありながらも、入所利用者様への感染には繋がることなく水際で抑えることが出来ています。

収支に関しては 2020 年度より厳しい状況となっています。そのような中でも建築計画は粛々と進め、現在基本設計を行っています。

また、除草ヤギを通して多くのメディアにも取り上げて頂き、最終的には利用者様や職員にも協力して頂き重症心身障害児・者への理解を広める活動が出来ました。

【島田療育センター多摩】

2021 年度の方針

療育を見つめ直し組織力の強化、経営の安定化を図る

- 1・感染対策を行いつつ、各事業の増収計画を見直し、収入に繋げる。
- 2・接遇アッププロジェクト推進委員会作成の「接遇アップハンドブック」を使用しての接遇強化に努める。
- 3・入所事業は日中支援の在り方、在宅は島田療育センターでなくては出来ない事業の見直し。
- 4・変化する社会・医療・福祉情勢に組織で対応できる人材育成を行う
- 5・新センター建築計画の基本設計を行う
設計業者の選定、基本設計の構築
東京都、国への補助金申請準備を行う

- 1) 感染対策を講じつつ、各事業の増収計画を見直し、収入に繋げる。
各事業の停止は行うことなく継続しました。「院内感染対策拡大委員会」の毎週

メール会議を実施、対策に関する確認事項を検討しました。

リハビリ職員の入所担当を外来へ移行し外来収入に増に努めましたが、診療控が影響し、収入増には繋がりませんでした。

2) 接遇アッププロジェクト推進委員会作成の「接遇ハンドブック」を使用しての接遇強化に努める。

2021 年度新職員研修でも使用、6 月までには各職場へ配布し職員一人一人の接遇の意識は変わってきています。

今後も接遇強化に努めます。

3) 入所事業は日中支援の在り方、在宅は島田療育センターではなくては出来ない事業の見直し。

入所事業においては病棟間交流もできない状況ではありましたが、その中で個別性に応じた日中支援を検討しながら行いました。在宅支援では細かい見直しはできませんでした。2022 年支援体制の在り方を今一度見直しする予定です。

4) 変化する社会・医療・福祉情勢に組織で対応できる人材育成を行う

組織の力を高める取り組みとして、主任以上を対象とした研修を実施し、95%の受講率とともに受講後のアンケートでは満足度（よい・とてもよいを合わせて）97%の結果となりました。

院内研修視聴ツールである「しまナビ」の活用と定着にともない、研修に関するアンケートもオンライン化することによって集計時間を大幅に削減することができました。

プロフェッショナルリティを備えた人材を育成する中で、自発的な研究発表を行う動きが出てきましたが、今後は通常業務を行いながらも発表の機会を持てるような環境づくりに取り組む必要があります。

DX の活用について、オンラインミーティングツールである Zoom などは幅広い職種で利用されるようになりましたが、更なるデジタルの活用へ組織として目を向けていきたいと考えています。

5) 新センター建築計画の構築

基本設計に入りました。現場職員からなる検討部会にヒアリングを重ね、実際の仕様や備品、導線等細かい部分の聞き取りを行いながら、レイアウトを作成して来ました。

2022 年の補助金申請に向かい基本設計は現在も続いています。

6) その他

防災危機管理対策委員会では、毎月実施の消防訓練は実施、その他の外部訓練等は今年も中止となりました。

安全衛生委員会では、ストレスチェック対象者 376 名、受検率は 352 名で 94%、内面談対象者は 32 名で 9%でした。

衛生管理者の職場環境の巡視は 2 名体制で行っています。

2021 年度の苦情件数は総数で 9 件、外来関係の苦情が多く出ています。

医療安全管理委員会は、毎月の委員会開催、事故報告、ヒヤリハット等の分析を行い、年に 2 回の講習会をオンラインで実施しました。

院内感染対策委員会は、新型コロナウイルス感染症により、院内感染拡大委員会を設置、メールで随時検討を開催、I C T ラウンドの実施と報告は通常通り行い、こまめに手指消毒など衛生管理のチェックも行っています。また、医療安全管理委員会同様、年 2 回の講習会を実施しました。

新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関しては職員 3 回接種、入所利用者様も 3 回接種を完了しています。

7) センター内設備の整備

第 7 病棟機械浴・ストレッチャー 2 台・担架 2 台	5,621 千円
第 2 病棟ミスト浴・ストレッチャー 2 台	4,196 千円
床走行式介護リフト 8 台	3,936 千円
空調関係修繕	16,073 千円
PC 更新 50 台	8,163 千円
中央監視装置 2 台・送金機 20 台	13,085 千円
超音波診察装置	3,190 千円
デジタル X 線映像処理システム	4,950 千円
ストレッチャー 2 台	852 千円
1 号井戸補修工事	13,750 千円

8) 各部署アクションプランの報告

外来の新患数は 719 件でした。年間の外来診療報酬請求ベースは約 44,909 千

円の増加となりました。

外来のリハビリ診療報酬請求ベースでは約 28,600 千円増収になりましたが、入所に関して約 42,958 千円減少しています。これは入所リハビリより外来リハビリを増員した結果になります。しかし外来は予約を入れていても約 3 割はキャンセルが入るため、キャンセルを入所に充てることのできない現状で増収につなげない結果となっています。

2022 年の体制は現在療育部とリハビリ部で検討を行っています。

歯科は外来で約 5,637 千円増収、入所は約 3,362 千円減収しています。

療育部のサービス推進費収益、腹臥位の取り組みに関しては約 357 千円の減少、60 分の腹臥位は利用者様の体調がよくても、非常に厳しい体勢になることと、職員の対応が十分にできないことから減収につながっています。

施設内特別活動支援加算に関しては、ライブ中継や、無観客ライブ等工夫をして行い約 1,015 千円増収となりました。

集団コミュニケーション療法（ほっとステーション活動）に関しても同様に約 332 千円の減少となっています。

短期入所に関しては、稼働率は 55.9%と昨年より 0.2%上がりましたが、引き続き低い数字となっています。

デイケアセンターの稼働率は幼児部が 62.7%で昨年より上がっていますが、青年部が 65.1%と昨年より減少しています。要因としては登録人数の減少によるものになります。

支援部が行っている施設支援一般指導事業は昨年より多く実施することができています。訪問に関しては 53 件減少、計画相談の実施件数は昨年より多く実施していますが、2022 年度は支援部が請け負っている事業に関して体制を整える必要があります。

9) 児童発達支援センター、放課後デイサービスの自己評価実施、医療型障害児入所利用者調査の実施

児童発達支援センター放課後デイサービスの自己評価と今年は生活介護も自己評価をセンターで実施致しました。また第三者評価の利用者調査を 2021 年度実施致しました。

ホームページに掲載を致しました。

10) 地域との交流

2021 年度も病棟へのボランティアは中止、国士舘の介護等体験実習も中止となりました。わいわい祭りも地域の方を招いて行う事は中止としましたが、入所利用者様に楽しんで頂くために、2021 年もわいわい祭りの代わりに花火会を実施しました。

職種別人数(職員・非常勤)

2022年5月1日現在

	多摩			はちおうじ		
	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計
医師	17	23	40	6	9	15
歯科医師	1	5	6	0	0	0
臨床検査技師	3	1	4	0	3	3
放射線技師	0	2	2	0	2	2
薬剤師	3	2	5	0	0	0
歯科衛生士	4	1	5	0	0	0
事務員	17	2	19	2	0	2
ケースワーカー	2	0	2	0	0	0
社会福祉士	7	0	7	2	0	2
運転手	1	0	1	0	2	2
裁縫手	0	2	2	0	0	0
理学療法士	14	0	14	8	0	8
作業療法士	11	0	11	4	1	5
言語聴覚士	12	1	13	6	1	7
公認心理師	9	2	11	3	0	3
リハビリ工学士	1	0	1	0	0	0
臨床工学技士	1	0	1	0	0	0
診療情報管理士	0	0	0	1	0	1
管理栄養士	2	0	2	0	1	1
看護師	114	19	133	7	4	11
准看護師	11	7	18	0	0	0
療育士(保育士)	32	7	39	2	0	2
療育士(介護福祉士)	87	1	88	4	0	4
療育士(児童指導員)	10	1	11	1	0	1
療育士(療育員)	4	12	16	0	9	9
その他(用務員、他)	0	4	4	0	0	0
合 計	363	92	455	46	32	78

【2021 年度 島田療育センターはちおうじ事業報告】

2021 年度の方針

<心を届ける体制の強化>

- ① 経営の強化
収入を増やし、支出を抑える
- ② 感染・防災・防犯の体制の強化
わかりやすく動きやすいシステムの構築
- ③ 臨床を理解する体制の強化
事例検討や相談・発表・勉強会・地域連携システムの構築
- ④ 10 周年のイベントをしっかりと行う
式典の開催や記念誌作成などを職員全員で協力して成功する

<総括>

2021 年度も新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、療育診療の延べ人数が 27,533 人（前年より 115 人増）、小児診療は 12,626 人（前年より 1,107 人増）で、利用児者延べ人数は 40,159 人となり、前年度より 1,222 人増加となりました。療育診療（障害児者診療）の新患受け入れ数は 568 人（昨年度より 101 人増）、小児診療の新患は 377 人でした（30 人減）。診療部門の課題である新患待ち状況については、昨年度より新患数が増えましたが、概ね 4 ヶ月待ちで推移しました。発達支援部門は診療の枠組み以外の事業として相談事業・療育事業・普及啓発事業・施設支援事業等を新型コロナウイルスの感染予防対策をとり、多人数が集まる講演会等はオンライン形式で行うなどの工夫をして実施しました。在宅重症心身障害者（18 歳以上の方）支援の通所部門は利用者総数 29 名で、その内 19 名（約 7 割）が超・準重症者です。2021 年度は、感染予防対策として電話相談や訪問といった方法もとりながら、昨年度以上の通所実績 86%（昨年度 84%）となりました。日中活動も外出活動は縮小しましたが、通所内活動を中心に実施し、在宅中の方には You tube での活動提供も行ないました。

2021 年度は、地域連携において、八王子市からの依頼で、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種業務に協力しました。

外来利用者様 500 名に満足度調査行い、対応面については、全体で 99.3%

(昨年度 99.3%)、診察や会計の待ち時間の関連面は 94.3% (昨年度 94.3%) という満足度評価でした。

① 経営の強化

2021 年度も、新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、診療部門および発達障害児支援事業、重症心身障害者通所事業等、全ての事業を実施し、利用者数は前年度より増加しました。その結果、収入面では昨対比で増額となりました。支出については、退職者補充を最小限にし、経費を圧縮することで、昨対比で人件費、事業費を削減することができました。

② 感染・防災・防犯の体制の強化

感染対策については、委員会が中心となって情報収集・対応マニュアルを作成し、緊急連絡も含めて職員への連絡を一本化し、センター全体の感染対策をスムーズに行うことができました。防災については、2024 年の事業継続計画の策定義務化に向けて、防災委員会を中心に計画の作成を進めています。避難訓練については八王子市とも連携し、年 2 回 (1 回は全体、1 回は通所事業中心) 実施しています。2021 年度は、火災時におけるアクションカードを作成し、各自が簡単かつ具体的に行動できるようにしました。防犯については、不審者対応をはじめ、非常時における全館放送とその対応について全職員に周知しました。防犯カメラを更新し、外部カメラによる録画映像を八王子警察署の依頼により 3 度提供して協力しました。

③ 臨床を理解する体制の強化

外部発信として、論文発表は 12 論文 (内英文によるものが医師 1 論文、言語聴覚士 2 論文) が受理・掲載されました。また、ZOOM 等による学会発表が 10 発表、講演会・講習会の講師を 54 演題行ないました。外部関係機関との事例検討会議は 20 件、虐待関係の関係者会議も 16 件行いました。2021 年度は、地域連携の強化として、八王子市および医師会と協力して、市内の高齢者 3 施設の利用者および施設職員 450 名、集団接種会場に行けない基礎疾患および障害のある利用児者 90 名に対して新型コロナワクチン接種を行ないました。

③ 10 周年のイベントをしっかりと行う

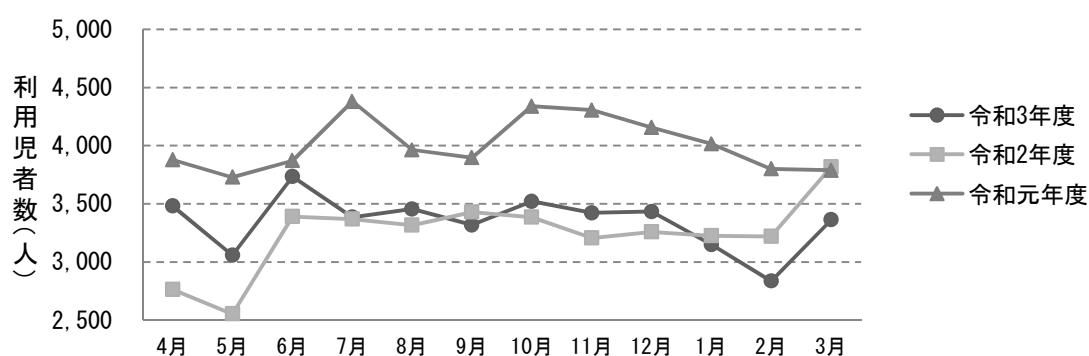
10 周年記念式典委員会および 10 周年記念誌委員会を 2 年前に発足し、若手職員を中心に準備を進め、各事業を滞りなく実施しました。式典は、11/13 (土) に「j-com ホール八王子」で開催し、当日は来場者 225 名、youtube での LIVE 配信では合計 500 名の方に式典およびコンサートをご覧頂きました。記念誌は 1 年ごとにトピックを取り上げて、写真も豊富に掲載して、10 年の歩みが

分かる素敵な記念誌となりました。1500部印刷して、関係機関および職員に配布しました。

(1) 利用児者数の推移

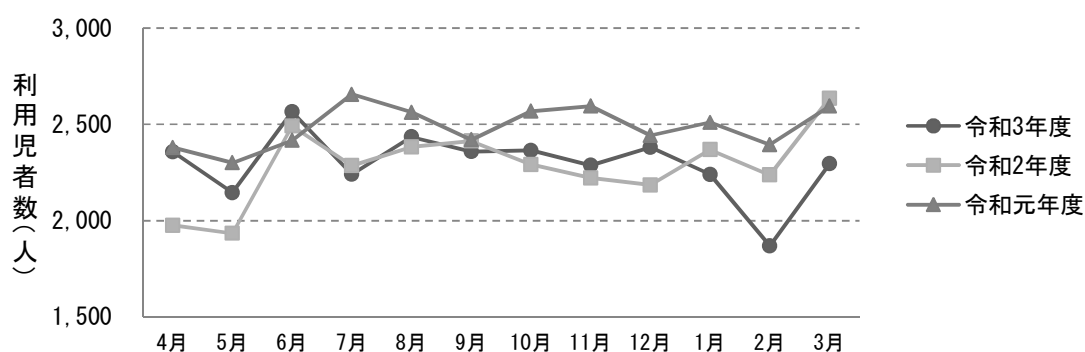
① 全利用児者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	3,482	3,058	3,734	3,385	3,455	3,318	3,521	3,422	3,434	3,151	2,836	3,363	40,159
令和2年度	2,763	2,554	3,391	3,369	3,317	3,429	3,385	3,207	3,259	3,226	3,220	3,817	38,937
令和元年度	3,878	3,729	3,871	4,380	3,963	3,896	4,339	4,307	4,157	4,016	3,800	3,788	48,124



② 療育診療利用児者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	2,357	2,145	2,565	2,240	2,434	2,358	2,364	2,287	2,380	2,239	1,868	2,296	27,533
令和2年度	1,976	1,933	2,491	2,285	2,382	2,413	2,291	2,221	2,185	2,368	2,237	2,636	27,418
令和元年度	2,379	2,300	2,416	2,656	2,563	2,419	2,569	2,595	2,442	2,510	2,394	2,595	29,838



③ 小児診療利用児者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	1,125	913	1,169	1,145	1,021	960	1,157	1,135	1,054	912	968	1,067	12,626
令和2年度	787	621	900	1,084	935	1,016	1,094	986	1,074	858	983	1,181	11,519
令和元年度	1,499	1,429	1,455	1,724	1,400	1,477	1,770	1,712	1,715	1,506	1,406	1,193	18,286

